

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和6年7月2日

千葉県知事

熊谷 俊人 様

提出者 272-0032

住 所 千葉縣市川市大洲3-21-1

氏 名 北越コーポレーション株式会社関東工場

執行役員工場長 安藤 邦宏

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 047-378-0101

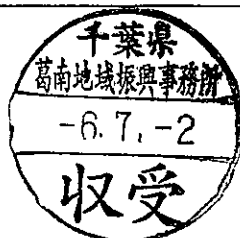
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	北越コーポレーション株式会社関東工場
事業場の所在地	千葉縣市川市大洲3-21-1
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	大分類：製造業 中分類：パルプ・紙・紙加工品製造業
② 事業の規模	前年度の製品出荷額 14494 百万円
③ 従業員数	242 名（自社 94 名 協力会社 148 名）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1

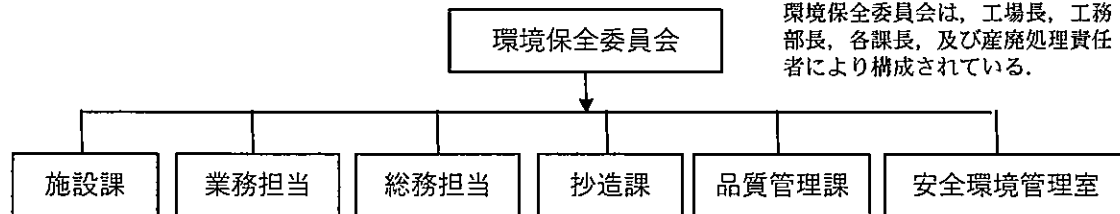
（日本工業規格 A列4番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

「環境保全委員会」において環境管理責任者を工務部長とし、廃棄物の減量化、再資源化等について検討量的には、工場搬出量を業務担当が管理し、中間処理施設での処理は施設課動力係が管理、質的には年1回（有害物）外部分析を委託している。



環境保全委員会は、工場長、工務部長、各課長、及び産廃処理責任者により構成されている。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	排出量	t	t
	（これまでに実施した取組） 別紙2		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	排出量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 別紙2		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 別紙2
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 別紙2

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙2		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙2		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙2		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙2		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙2		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙2		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

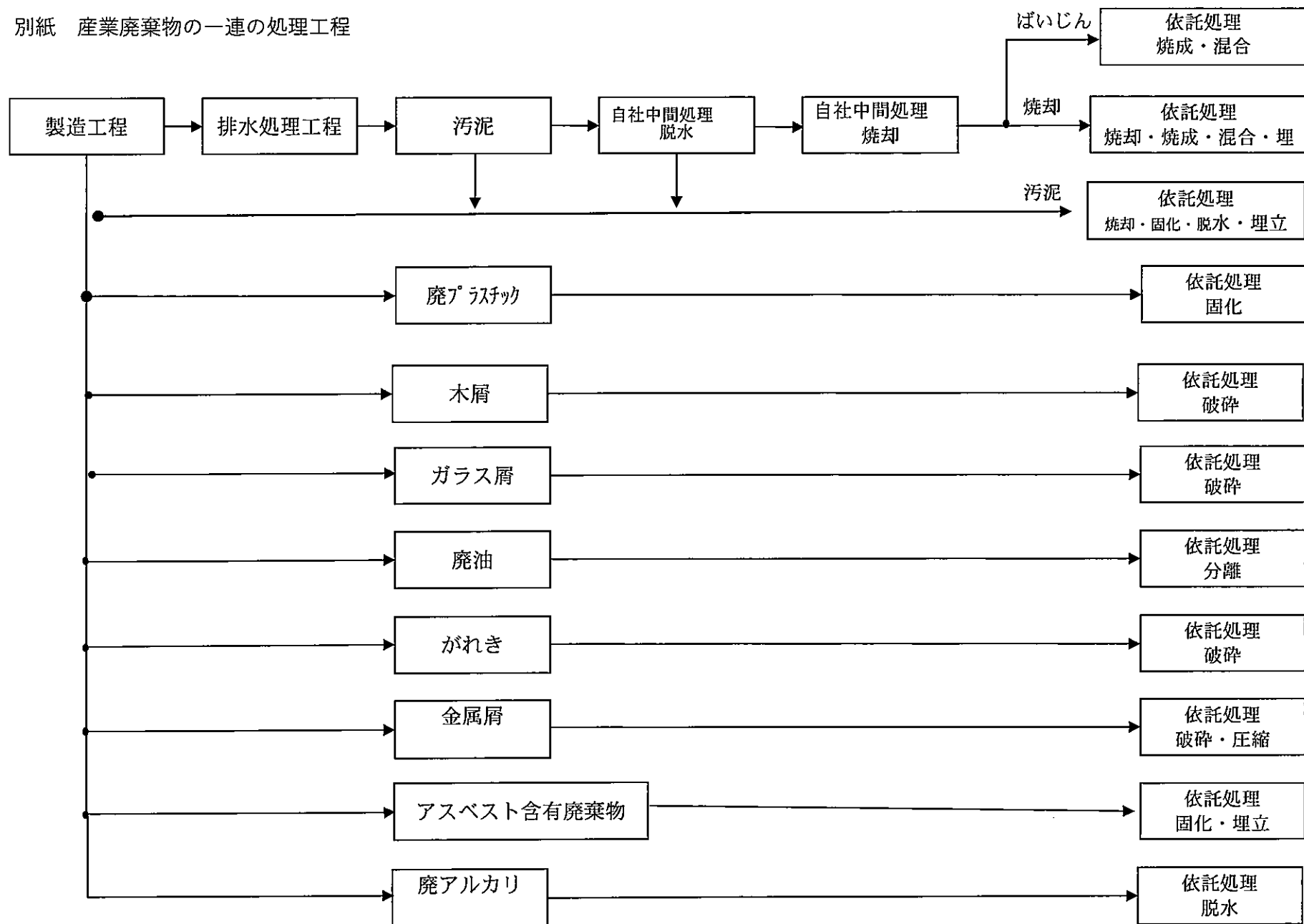
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙2		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙 2	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙 2		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 産業廃棄物の一連の処理工程



別紙2-

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	排出量	16,520.8t	1,225.6t	0.3t	3.6t	2.5t	0.3t	6.4t	0.0t	0.0t
	（これまでに実施した取組） - 古紙納入先に古紙からの不純物混入防止の働き掛けと納入品の検品により、削減に努めた。 - 製造工程の管理による原料回収での製紙汚泥発生減少に努めた。 - 汚泥は、炭化設備の安定運転に努め、有価で処理できる様に努めた。									
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	排出量	15,859.9t	1,176.6t	0.3t	3.4t	2.4t	0.2t	6.2t	0.0t	0.0t
	（今後実施する予定の取組） - 減量の余地は無いが古紙納入業者に対し不純物混入防止の働き掛けと納入時の検品による除去を続ける。 - 廃プラスチック類の社内（茨城県）での燃料化による処理増加で減量化を続ける。 - 汚泥炭化設備の日々の点検と定期整備により安定運転に努め、汚泥の排出量削減に取り組む。									

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 産業廃棄物毎に掲示を行い、分別を実施。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） - 産業廃棄物分別の掲示を継続し、分別の状態を点検し注意喚起 - 産業廃棄物分別の掲示を継続し、分別の状態を点検し注意喚起

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和５年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組)									
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(今後実施する予定の取組)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	14,883.4t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（これまでに実施した取組） ・ 中間処理施設の計画補修の実施し、能力維持と突発停止の防止に努めた。 ・ 炭化設備の定期整備を行い、突発停止を防止に努めた。 ・ 脱水施設に於いて、操業監視と調整の実施で含水率低下に努めた。									
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	14,288.1t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（今後実施する予定の取組） ・ 中間処理施設の定期補修の実施で安定運転を行い、運転状況監視と調整の実施で、含水率を下げ減量化を目指す。 ・ 汚泥炭化設備の点検と定期整備で安定運転を行い、さらなる減量化を目指す。									

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項										
①現状	【前年度（令和５年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（これまでに実施した取組） ・ これまでに、自社で埋立処分又は海洋投棄処分をおこなったことはない。									
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（今後実施する予定の取組） ・ 引き続き、埋立処分又は海洋投棄処分をする予定はない。									

①現状	【前年度（令和5年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（これまでに実施した取組） ・ これまでに、自社で埋立処分又は海洋投棄処分をおこなったことはない。									
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（今後実施する予定の取組） ・ 引き続き、埋立処分又は海洋投棄処分をする予定はない。									

【目標】									
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	金属屑	廃油	がれき類	ガラス屑	木屑	廃アルカリ	アスベスト含有
全処理委託量	1,571.8t	1,176.6t	0.3t	3.4t	2.4t	0.2t	6.2t	0.0t	0.0t
優良認定処理業者への処理委託量	656.7t	275.8t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t
再生利用業者への処理委託量	560.7t	1,120.5t	0.3t	0.0t	2.4t	0.2t	6.2t	0.0t	0.0t
認定熱回収業者への処理委託量	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	355.0t	10.8t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t	0.0t

(今後実施する予定の取組)

- ・可能な限り、再利用可能な処理業者 また、焼却処理を行う処理業者は熱回収が可能な処理業者に委託を目指す。
- ・減量の余地はないが、更に有価で処理可能な品目と分別を細分化し、減量化を目指す。
- ・中間処理設備の運転状態監視及び定期補修の実施で安定運転を行い、汚泥の減量化を目指す。
- ・汚泥に於いて汚泥炭化設備の安定運転を行い、減量化を目指す。
- ・炭化設備停止時は、既設焼却施設との切り替え運転により、汚泥の排出量を少なくして、委託処理を削減する。
- ・廃プラスチック類に於いて、自社内で燃料として使用を増やし、減量化に努める。